

本2024

前期日程

令和6年度入学試験問題（前期日程）

総合問題

（ 芸術地域デザイン学部
芸術地域デザイン学科
地域デザインコース ）

—解答上の注意事項—

- 1 「解答始め」の合図があるまで問題を見てはならない。
- 2 受験票、筆記用具〔鉛筆（シャープペンシルを含む）、消しゴム、鉛筆削り〕、眼鏡及び時計以外の物は、机上に出してはならない。
- 3 問題冊子のほかに解答紙2枚と下書き用紙2枚（白紙1枚と原稿用紙1枚）がある。
- 4 解答は横書きとする。
- 5 解答紙を提出すること。
- 6 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること。

設問 1 以下の課題文 1 を読み、質問に答えなさい。

課題文 1

Sotheby's has started using the more genteel language of art history to entice traditional collectors toward blockchain-based collectibles for a sale, Natively Digital NFT. It is running April 18-25 and is designed to unite early pioneers of computer art with their crypto counterparts.

Traditional collectors are often drawn to provenance and pedigree, so a sale focused on the lineage of computer art might help convince them that NFT artists have a stronger art historical foundation beyond the beep and boop of internet forums.

The event features some of the earliest examples of generative art, a genre where control of the creative process is determined by algorithms or a predetermined process to create images. Examples include artists working in the 1960s and 1970s like Vera Molnar, Chunk Csuri and Roman Verostko alongside more recent offerings from the digital artists Dmitri Chemiak, Tyler Hobbs and Anna Ridler.

The Sotheby's press release says “the prescient and pioneering work” by Molnar, Csuri and Verostko “has provided the foundation for the digital artists at the forefront of the digital art and NFT movement.”

“Generative art is a movement that has sparked interest,” said Michael Bouhanna, 30, a contemporary art specialist who organized the Sotheby's sale. Having more than a half-century of history behind generative art helps soothe the skeptics, he said, adding, “Discussions with traditional collectors have been easier.”

(1) NFTs of art and collectibles generated more than \$23 billion in sales, according to some industry reports, a number that some experts have said could indicate a bubble getting ready to burst.

The art adviser Todd Levin said that sellers are producing more historically informed exhibitions to broaden the market's appeal and create a sustainable business model.

“These are the godfathers and godmothers of digital art that you need to know,” Levin said of the older artists included in the auction.

“You can't just keep selling NFTs without that cultural context.”

出典：Zachary Small, “Reframing NFTs For the Art Market”, *The New York Times*, Apr. 16, 2022 より抜粋。 *NFT：a nonfungible token. Sotheby：世界有数のオークション会社

Can an art history frame help expand the NFT market? by Zachary Small © The New York Times Company

問 1 本文中の Traditional collectors の特徴について説明しなさい。

問 2 下線部(1)を日本語に訳しなさい。

設問 2 下記の課題文 2 を読んで質問に答えなさい。

課題文 2

そもそも芸術作品とは、不動産と同様に排他性が高く占有に適した財である。ゆえに、歴史的には、芸術作品は王侯貴族や聖職者のような特権階級によって空間的にも世俗から隔離され、それ以外の階級からは秘匿されてきた。つまり、ある貴族が特定の作品を所有すれば、それ以外の人々はその作品へのアクセスを禁じられる。その意味では、近代以降のメディア・テクノロジーの発展は、結果的に芸術作品の占有という状況の変化を促してきた。

その象徴的な幕開けが、ミュージアム、とりわけ 1793 年のルーブル美術館の開館である。なぜなら、これまで「王」という個人が独占してきた芸術作品へのアクセスを、国民国家への移行に伴って、少なくとも建前上は国民の共有財として市民に開いたからである。ただし、作品の占有という状況そのものは変わりがない。なぜなら、所有者は王から国家へと移行したが、国家もまたある種の集合的個人だからである。個々の市民に与えられたのは、これまで作品を所有する特定の個人にしか許されなかった「作品を見る」権利であり、この見るという形式での所有の代行を可能にしたのが、ミュージアムというメディアだった。

その後も、複製技術の発展に伴って、芸術作品の所有の形式は少しずつ変化していく。まず所有欲の対象となったのが、現在でもミュージアムショップで最も売れている作品の絵葉書である。これらの葉書はもちろん通信手段としても用いられるが、一方で自身の手軽な芸術作品のコレクションとして購入されることも多い。続いて、ミュージアムを訪れる人々がカメラを持ち歩くようになると、芸術作品は写真のかたちでコレクションの対象となっていく。その初期の利用は、作品の鑑賞用ではなく観光時の記念写真として撮影されたことが多いと考えられるが、現在 40 代以上であれば、大学の美術史の授業で、スライドに収められた大量の作品を鑑賞した経験を持つ者も多いだろう。さらには、写真がデジタル化し、私たちが日常的に携帯するメディア、とりわけスマートフォンに撮影機能が実装されると、美術館や芸術祭における作品の撮影が急速に一般化していく。もちろん、ここでデジタル画像化された作品は、Instagram を中心とした SNS で注目を集めるためのコンテンツとして収集されたわけだが、それらの作品が個々のアカウントで一定の意図のもとで公開される（キュレーションされる）という意味では、これもまた①所有の代行の制度として理解することは可能なはずだ。

つまり、実物を見るという代行のかたちから、モノとして、さらにはデジタルデータとしての複製の所有という流れの中で、新しいメディア・テクノロジーは次第に作品の所有者を拡大していったのである。このアクセスの拡大とは、NFT の導入に際して叫ばれる ②「アートの実民主化」の基本的な性質である。その先に、NFT という新たなメカニズムに基づく作品の所有に直面しているのである。そして、NFT アートの保有もまた、所有の代行の性質を有する。なぜなら、既に触れたように、現状ではブロックチェーン上で発行されているトークンには、画像や映像といったデータが記録されることは稀なため、厳密にはその記録のなかに記載されているリンク先の作品を所有していることの証明にしかないからである。

つまり、ジャーナリストのケヴィン・ドゥガン（Kevin T. Dugan）が指摘するように、「NFT 自身は芸術作品ではないが、デジタルの作品を誰かが所有していることを示す方法の一つ」（Dugan 2022）という扱いになる。さらに、所有権の対象は現状「有体物」に限られているわけで、法的な観点からも「アート NFT の保有が NFT アートを「所有」していることにはならず、「デジタル所有権」といった表現は些か不正確なものと云わざるを得ない」（増田・古市 2021）。したがって、NFT にいたる一連の情報技術はやはり、デジタルデータそのものをまるで物理的なモノのように扱うメカニズムとして理解されるべきであり、③NFT はそのメカニズムの枠内における所有を証明するという意味で、きわめて代行らしい代行の制度だと言える。

出典：光岡寿郎「所有の代行制度としての NFT：技術とアートをめぐる試論」東京経済大学コミュニケーション学会『コミュニケーション科学』（57）2023 より抜粋

問1 下線①「所有の代行」を示すいくつかの事例を課題文の中から探し、述べなさい。

問2 下線②「アートの民主化」とはどのようなことか？言及している部分を要約しながら150文字以内で記述しなさい。

問3 下線③を説明している文章を抜き出して記述しなさい。

設問3

課題文1・課題文2を踏まえて、NFTがもたらした芸術のあり方について自分の考えを400字以内で述べなさい。